



**傷心中ちよいのぽちや後輩を慰めたら  
肉体関係を迫られた!?**

~社員旅行から三人で抜け出して...

温泉貸し切りで本気の浮気セックス♡~

**この物語はフィクションです。  
登場する人物・名称は架空であり  
実在のものとは一切関係ございません。**



某日  
オフィス

おはようございます

ガヤ...

ガヤ...



周りからちらほらと  
おはようと挨拶が返ってくる。

始業の5分前、いつもの時間にデスクに着く。



俺は鷹野ヒデアキ、独身30歳男だ。

平凡な中小会社に勤めている。

真面目にコツコツ働いてきた甲斐もあって、  
最近の後輩の指導を任されるようになってきた。

そして、俺の担当ってさ  
その後輩は…。





あ、せんぱい、  
おはようございますっ!!

せんぱい、

おは、

お、おはよう

彼女が望月ほまれちゃん。  
中途入社で俺の後輩になったOLだ。

勉強熱心で教えたことはどんどん吸収してくれそう、  
愛想もよくて、教えがいのある部下だ。

可愛くて愛嬌があるタイプだし、  
彼氏にも困ったことがないんじゃないだろうか。





……?  
何ですか? センパイ  
じいっと私を見て…

?


なんだろ…

あ、ああ。  
何でもないよ…。

……?  
そうなんですか?!

それじゃあ今日も二日  
よろしくおねがいますねっ!!





彼女に指導を続けること数カ月、  
センパイとして、ある程度信頼を得ることが出来た。

最初は堅苦しく名字で呼ばれていたが  
最近は気軽に『センパイ』と呼んでくれる。

休み時間には彼女から  
世間話をしてくれるようになった。  
なんだか距離感も縮まっている気がする。



とはいえ、彼女から聞く話の内容は  
『彼氏付き合いが上手くないか』とか  
たわいもない愚痴だったりが多いんだけど…。

明るい女の子と話しているだけでも  
こちらの気分も明るくなる。

なんだかやる気が出てきたぞ、  
今日の分の仕事もサクッと終わらせてやるっ…!!!









2  
週  
間  
後  
⋮



あわ…  
またやっちゃった…

うん

フシ…

たーい

たーい



その日はなんだか、  
ほまれちゃんの調子が悪そうだった。

業務中も気がつくとはーっとして  
考え事をしているみたいだ。



普段はそんな感じじゃないんだけど...  
何か悩み事でもあるのかもしれない。

力になれるかはわからないが、  
休憩時間に話を聞いてあげられないかな...。





休憩時間…

フッ

しゅん…

フッ

はぁ…

望月さん、  
もしかして何か  
悩んでるじゃないか？

ふえっ、  
き、急になんですか？

んんん

んんん

んんん

急じゃないよ、  
今朝からずっと考え事してるみたいで  
集中できてないじゃないか

んんん





うううう…  
出ちゃってましたが、  
ダメなところ…

誰にでも  
調子の悪い日はあるわ

でも、普段としないかな  
望月ちゃんらしくないかなって…  
やっぱり何かあった？

ス…

傷付かないようフォローしながら探りを入れると  
急に涙目になってぐずる彼女。  
というか本当に泣き出しそうだった。

どうやら凶星だったようだ。

…ぐすつ、すぐ見抜かれるなんて、  
センパイには敵いませんね…


じゃあ、お言葉に甘えて  
センパイに相談させてもらいたいです…。

一旦、人のいない  
給湯室に行きませんか？

お、おう…

うん





周りに他にも人がいる状況では  
悩みを打ち明けづらかったのかもしれないな。

俺も仕事を切り上げて給湯室へと向かった。





給湯室に移動して  
いざ話を聞こうという段になって、

望月さんは急にモジモジし始めた。

……ううん  
……ううん……ううん……ううん……ううん……

（でもさっぴいはどうも  
真面目で話を聞かなくて……。  
ううん……ううん……ううん……）

（あ……）

モジ

モジ

ううん……

ええと…実は…

昨日、彼氏から  
『お前最近太ってきたよな』って言われて…

その事はもう  
図星なんですけど…

それから彼との関係がぎこちないって言うが…  
私、参っちゃって…仕事に集中できなくて…

そうだったんだ…

づう…

ドキ

ドキ

ドキ



意識してみると確かに  
下腹に程よい脂肪がのびのびするかもしねなら。

ぴちぴちになったシャツが  
ボディラインを強調してしまってる  
とかなるかなってHロクかなんか。

ぷちゅ

私、お酒もご飯も好きだから…  
いつの間にかお腹に  
こんなにお肉がついちゃって…ぐすん

ぷちゅ

ぷちゅ

ぷちゅ

ぷちゅ



俺は、それくらいの体形の方が好きだけだな……

抱き心地も良さそうだし……

だ、抱き心地……？

しゅっ

しゅっ

ああっ、いやいやっ……!!  
そういうセクハラ的な意味じゃなくなっ!!

そ、そうですみねっ……!!  
一瞬びっくらしちゃいました。



あ、あははは…

な、なんだこの空気…。

トロン♪

チレ♪


チレ♪

ドキ

ドキ

彼女の悩みを聞くだけで  
こんな甘い空気になると思っていなかったぞ…。

まあ、とりあえず  
セクハラと捉えられなくてよかったか。



その後、望月さんは  
悩みを払拭したように明るくなり、  
抱えていた仕事もこなせるようになったみたいだ。

いや、今はそんなじつよりも……



心なしか望月さんと  
変に目が合う回数が増えた気がする…。

っ!?

んっ…

目が合っとならば顔反らされるし…。  
もしかして変なふうを意識されているのかな…。

いや…、彼女は彼氏持ちなんだ。  
俺の思い違い…、思い違い。







数か月後……



下半期の目標を達成した俺たちは、社員旅行で旅館に来ていた。

もちろん望月さんも参加している。

本来俺は飲みニケーションなどクソ喰らえ的なスタンスなのだが…

今回に限っては話が違う。



今日訪れたのは、ユリ、『ゆらぎの宿』。

俺1人では行くこともないであろう、  
風情漂う豪華温泉旅館だ。

軽く調べただけでも食事も温泉も評判がいらしく  
俺も年甲斐もなくテンションが上がっていた。

もちろんだ料金は会社持ち、経費様々だ。



部屋に着くなり館内着に着替える。

到着が夕方だったため、  
間もなくして初日の飲み会の時間になった。

そろそろ大広間に向かおう。



広間につくと、

既に食事の準備が済んでいるようだ。

目の前には海鮮料理や酒が並んでいる。  
どれも美味そうだ。

自然と関わりのある仕事のチームごとで集まり  
各々席についていった。

俺の正面には浴衣を着た望月さんが座っている。

カヤ...

カヤ...









かんぱーい!!

わーい

カランッ



もう何度目の乾杯だろう。

お酒が好きだって聞いてはいたけど...  
望月さん、こんなに強かったんだな...

1時間もすると  
皆ほどよく出来上がり、  
それぞれの卓で盛り上がっていた。

望月さんもお酒が進んで  
普段よりも饒舌になっている。

ガヤ...

カ...



そうなんですよー。

普通に体型維持するだけで  
どれだけ大変か分かってんのか、もー!!

仕事詰めで運動なんか  
する暇なんか無いってのー!!

むっ

あはは…  
女の子は男よりそういうと二気にしないと  
いけないから大変だよな

酔ってボルテージが上がってきた彼女に  
相槌を打ちながら酒を飲む。

ひん



望月さんは酔って  
色々と発散するタイプだった。  
まあ、その方が気兼ねなく話せていいんだけど。

むん

それに、ボディータッチも増えてきたような……。  
ことあるごとに手を重ねてきたり……。

ドキ

ドキ





ふう…でもセンパイと話せて  
スッキリしました!!  
ありがとうございます♡

ドキ

ドキ

それに…この前こんな体型でも  
好きって言ってもらえて嬉しかったですよ…♡  
…ちよつと勘違いするくらいには…

お、おう。  
どういたしまして

急に恥じらいを見せてきた  
思わずドキマギしてしまう。



あ、センパイ照れてます？

はあ

ゴレ

ゴレ

はあ

仕事中はしっかりしてるから、  
そういうギャップあるのいいですねー  
センパイ可愛いですよー

おい、急に酔いが回ったのか？  
無礼講だからって無闇に  
先輩をからかうもんじゃないぞっ

それに君は彼氏がいるんだから、  
よその男にベタベタするもんじゃない...

オオ...

すると、望月さんは  
一変して泣きそうな顔になる。

酔ってるのもあるが、  
感情が表に出やすい子だな…。

センパイの言ってることも  
もっともなんですけど…

私だって…男の人みんなに  
こんなこと言ってるわけじゃ  
ないですよ…?





センパイだけです





再び鼓動が大きく跳ね上がった。

さっきとは違って  
今度はちよつとマジのトーンだ。

望月さんの指が俺の指に絡まり、  
少し強く包まれる。

お互いに視線がぶつかって無言になる。

店内は騒がしいはずなのに  
その数秒だけやけに静かに感じられた。

ギュっっっ

ドキッ

ドキ

ドキ

はぁっ

はぁ

トロン





あの、センパイ…

2人だけで  
抜け出ませんか？

はあ、

ドキ

はあ、

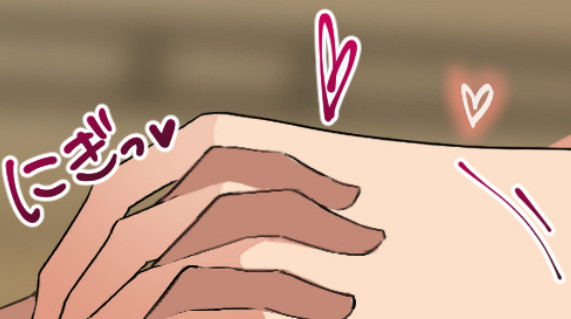
沈黙を破って望月さんが囁いた。

酔ってちょっと疲れちゃったんです。  
だから、2人で静かなところで  
話したいな…って。

これは完全に誘ってる。  
そうじゃなかったらなんだったって言うんだ。

これまでは会社の部下として  
線引きをしていたつもりだが…、  
ここまで踏み込まれて  
望月ほまれちゃんを異性として認識した。

自分の中で雄としてのスイッチが入る。







すみません、  
望月さん飲みすぎて具合悪いみたいなので  
ちよっと休ませてきますー!!

一方的に近くの人に声をかけると、  
彼女を介抱する体を装って  
飲み会の喧騒中から二人で抜け出した。





別の階の寝室に着き、襖を閉じる。

……ぷっ

あははっ…  
うまくいきましたねっ…!!  
ナイス演技でしたよ!!

はあ、

俺の方こそ  
望月さんに唆されてなかったら  
こんなことできないよ

ふふっ…

二人でひとしきり笑った後、再び沈黙が訪れる。  
だがそれはむしろいい雰囲気だ。

しっ、



明かりのついていない部屋で  
彼女の身体は月光の明かりに照らされている。

少し走ったからか、はだけた浴衣から  
おっぱいの谷間が丸見えだ。

ドキ

はぁっ

はぁっ


しゅっ

ドキ

酔いのせいで火照り、汗ばんだ身体は  
扇情的で…もう我慢できそうじゃない…。

…いいですよ  
…センパイ♡





体験版はここまでになります！  
彼女をチンポの快樂で寝取って行く様子は  
ぜひ、製品版にてお楽しみください♡